はるかのひまわり

人々に勇気と希望を与える花―はるかのひまわり―

阪神・淡路大震災　家族「再生」の物語

阪神淡路大震災

今から１６年前の平成７年（１９９５年）
１月１７日午前５時４６分発生

震災が奪ったもの・・・命、仕事、団らん、
街並み、思い出・・・・

たった１秒先が予知できない人間の限界

加藤いつかさんからのメッセージ

震災当時、我が家は4人家族。私は15歳で、中学3年生。妹は11歳で小学6年生。両親と暮らしていました。

あの朝、私は2階で、妹は1階で寝ていました。妹だけが家具の下敷きになり亡くなりました。震災での妹の「死」により、私達家族の暮らしは大きく変わってしまいました。

母は、亡くなった妹を思い、毎日の様に泣き暮らし、父は対照的に、ただ無言で仕事に逃げているように見えました。
私は「自分がしっかりして、両親を守らなければ」と変な責任感に駆られて、両親の前では泣くこともできず、感情を押し殺していました。

しかし、時間の経過とともに、いつまでも泣いて私の方を全然見てくれない母親に対して「もっと生きている私の方を見て欲しい」という気持ちを持つようになりました。

先に死んでしまった妹に嫉妬さえ覚えました。

そんな気持ちになっていた私に少しづつ変化が出てきたのは、亡くなった妹「はるか」を通して出会った人達がいたからです。 きっかけは、一輪の「ひまわり」でした。

震災の年の夏、妹が亡くなった場所に一輪の大きな「ひまわり」が咲きました。それは、生前に妹が可愛がっていた隣の家のオウムの餌だった「ひまわり」の種から咲いた花でした。その後、その場所にたくさんの「ひまわり」が咲きました。地域の人達は、その花の種を集め、それを「はるかのひまわり」と名付けて毎年、絶えることなく植え続けてくれています。

「はるかのひまわり」は、私にたくさんの出会いを作ってくれました。

読売新聞
（平成二十三年八月五日記事）
鳶巣コミセンではるかのひまわりが
育てられていて、東日本大震災の被
災地に送られました。

復興ひまわり 宮城にも元気

神戸生まれ出雲育ち

咲き始めたはるかのひまわり（鳶巣コミュニティセンターで）

阪神大震災の復興のシンボル「はるかのひまわり」が出雲市東林木町の鳶巣コミュニティセンターでも咲き始めた。今年は、東日本大震災で津波被害を受けた宮城県名取市にも種100個を送付。「花を見て元気になってほしい」としている。

はるかのひまわりは、阪神大震災で亡くなった神戸市の加藤はるかさん（当時小学6年）の自宅跡に咲いたヒマワリで、地元関係者らを通して種が全国に広まっている。同センターでは職員の山﨑順子さん（51）らが2006年から栽培し、今年は約30本が、小ぶりながら黄色い花を咲かせた。

種100個送る

7月31日には、ブログを通じて知り合った名取市の女性から「種を分けてほしい」と山﨑さんにメールがあった。震災後、関西から応援に来た人にもらった種を、地元の子どもらが植えたところ、津波による塩害にも負けず花が咲いたのを見て、感激したという。

メールには「仮設住宅の方にも奇跡を味わってほしい」「山﨑さんの力を借りて笑顔の花を咲かせられたら」とつづられ、山﨑さんは早速種100個を送った。

同センターは、被災地支援の取り組みで交流が生まれた団体を通じ、秋には収穫した種を福島県や岩手県にも送るという。山﨑さんは「前を向いて歩こうという気持ちになる花で、被災地の人たちにも元気になってもらいたい」と話している。（小野圭二郎）

島根

松江支局
〒690・0886
松江市母衣町
9
0852・23・1
FAX 23・1

ホームページ
http://www.yomi
co.jp/e-japan/
shimane/

浜田支局
〒697・0027
浜田市殿町17-3
日本興亜浜田ビ
0855・22・1
FAX 22・1

通信部
出雲 0853・22・3
大田 0854・82・0
益田 0856・23・7

販売のご用は
0852・38・8
広告のご用は
0852・21・5

山陰中央新報
（平成二十三年七月二十一日）
ひまわりは放射物質を吸収し濃縮する。

ヒマワリで浄化を
1万本分の種まき

福島市ホットスポット

放射線量が局地的に高い「ホットスポット」を放射性物質を吸着するとされるヒマワリで埋め尽くそうと、福島市水道局は20日、市民に開放していた約6千平方メートルの広場（同市小倉寺大平山）に約1万本分の種をまいた。

広場は県庁から約1キロ先の山の中腹に位置。地上1メートルの線量は先月の測定で最高毎時4・43マイクロシーベルトだったが、重機が入れないため大掛かりな表土除去ができず、利用制限するしかなかった。

水道局では事前に耕運機で広場の芝生をしま模様に刈り取り、職員約30人がこの日、3人一組に分かれ、手作業で50センチおきに種2～3個をまいていった。

放射線対策のためマスクや手袋を着けての作業に、職員の中には「息苦しい」と手を止める姿も。水道局の高木良明局長は「春先には花見で人がたくさん集まる場所。線量を下げてにぎわいを取り戻したい」と話した。

住宅で計測された毎時5・3マイクロシーベルトが最も高かった。

1例目の伊達市では空間放射線量が毎時3・2マイクロシーベルト以上を観測し、政府は原発事故後1年間の積算放射線量が20ミリシーベルトを超えると推定される地点を中心に勧奨地点を指定。南相馬市でも同様の基準で指定する見通し。

「ホットスポット」になっている福島市内の広場で、放射線量低減のためにまいたヒマワリの種を見せる市水道局の職員＝20日午前

震災で亡くなられた方々

東日本大震災で亡くなった方々のうち、20日に新たに氏名が判明した方

「はるかのひまわり」は
仁照寺でも咲きました。